

実践報告

三重大学海外協定校向けオンライン日本語講座

－『日本語ディスカッション』－

福岡 昌子

Online Japanese Course for Overseas Partner Universities of Mie University

－『Discussion in Japanese』－

FUKUOKA Masako

〈Abstract〉

Since the 2020 academic year, the spread of the new coronavirus infection has dramatically changed the way international exchange can be, and at the same time, new educational methods have been developed. Most notably in the field of education, face-to-face classes are no longer possible, and so classes are conducted online using software such as Zoom and Teams. Acceptance and dispatch of students to study abroad has, of course, been canceled, and participation in field studies, overseas language programs, etc. has all had to be conducted online. The fact that it became possible to learn and interact without going to the actual sites, despite the drastic changes in the educational environment that were unprecedented and unimaginable, was a new educational achievement. This article reviews and reports on the International Relations Projects Expense Assistance (Mie University) “Discussion in Japanese” class which were planned and implemented for international students who have been unable to come to Japan due to the COVID-19 pandemic.

From the questionnaire data, it is clear that since it was conducted online there were occasions when the audio and video were interrupted, and further it was often difficult to attend due to the time differences. However, for international students who have been deprived of the opportunity to study abroad due to the severe restrictions on movement between countries, they have been able to take the courses for free, interact with Japanese students and students from overseas partner universities, and further improve their Japanese language skills. It seems that the significance and impact of the implementation were high and provided students with a strong sense of improvement.

キーワード：コロナ禍、オンライン日本語講座、海外協定校、ディスカッション、国際教育交流

1. はじめに

2020年度以降、世界では新型コロナウイルス感染症が大流行し、国際交流のあり方が大きく様変わりすると同時に、オンラインによる国際教育が盛んに展開されていった。ま

ず教育の現場では、対面授業ができなくなり、Zoom や Teams などオンラインを通じた授業形態が行われることになった。留学についても、受入れや派遣が中止となり、フィールド・スタディや海外語学プログラム等もすべてオンラインで実施されるようになった。現地に行かずして、学んだり交流したりすることが可能になったことは、かつてない教育現場における激変であり、新たな教育成果であった。

2021 年度三重大学国際交流センターでは、コロナ禍により来日ができなくなった留学生のために、三重大学国際交流推進経費の助成を得て『海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解（日本語ディスカッション）』事業を実施した。本稿ではその活動報告を行う。

2. 事業の背景

2.1 留学生 30 万人計画の達成後の現在

2008 年の文科省による 2020 年までに留学生 30 万人受け入れようとする『留学生 30 万人計画』の施策は、2019 年 5 月に達成された（注 1）。その後、文科省は 2014 年に「スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）」（2014～2023）を立ち上げ、新たな国際教育交流を推進してきた（注 2）。現在、その中でも 18 の大学による 19 プロジェクトが中心となり、国際化をオールジャパンで促進する大学の主体的な活動の場「大学の国際化促進フォーラム（JFIU）」が展開されている（注 3）。

本学は、2021 年度より「大学の国際化促進フォーラム（JFIU）」における次の 3 大学のプロジェクトに参加することになった。①筑波大学「Japan Virtual Campus」（オンライン国際教育プラットフォーム）、②名古屋大学「我が国の大学教育国際化に資するジョイント・ディグリープログラムの促進」、③関西大学「Japan Multilateral COIL/VE Project（J-MCP）－多方向・多国間の COIL/Virtual Exchange 型養育プロジェクト－」（他：大阪大学「多様な文化・言語圏からの留学生リクルート：バーチャル大学ツアーの実施」）に参加し、国際交流の推進および留学生の獲得を図っている。

2.2 コロナ禍による交換留学の中止と無料による協定校向けのオンライン日本語講座

本学では 2020 年度および 2021 年度前期において、コロナ禍により海外協定校からの特別聴講学生の受入れは行わないことを決定した。そのため、年間 100 名を超える海外協定校からの交換留学生は極端に減少した。コロナ禍前から 2021 年度まで、協定校からの交換留学生のみの留学生数を見ると、2019 年前期 107 名／後期 101 名、2020 年度前期 42 名／後期 19 名、2021 年度 18 名／後期 18 名と推移した。また、在校生を対象とした国際交流センターの授業も対面からオンラインとなり、各日本語クラスの受講者は、クラスによっ

ては正規学生や研究生、大学院生など数名という状況になった。

2020 年度において、オンラインでも日本語教育の授業は展開可能であることがわかったため、国際交流センターの初めての試みとして 2021 年度前期から 1 科目『日本語コミュニケーション』開講することとなった（注 4）。初級・中級・上級各 5～6 回ずつの授業を組み、各コースの最終回には毎回日本人学生との交流授業を設けた。2021 年度に入っても依然として世界的に渡航が難しい状況が続いたため、2021 年度後期からは、日本語のレベルが中級後半から上級レベルを対象に『日本語ディスカッション』をオンラインで開講することとなった。『日本語ディスカッション』は、本来ならば留学によって得ることができる日本語力の向上や学生相互の交流、異文化理解を、オンラインを通して本学および協定校の学生に共修学習の機会を提供しようと図ったものである。

3. 『日本語ディスカッション』の概要

- (1) 目的：本事業を通して、協定校の学生同士が相互に交流を行い、異文化理解の視点や日本社会・日本文化について知見を深める。本事業を実施し継続させることによって、三重大学の留学生獲得に貢献する。
- (2) 実施日程：2021 年 11 月 10 日～2022 年 2 月 9 日合計 13 回（4 アンケートの結果参照）、2022 年 11 月 9 日～2023 年 1 月 25 日合計 9 回、いずれも日本時間 16 時 20 分～17 時 50 分に実施した。
- (3) 講義者：福岡昌子（専任教員）
- (4) 受講人数および参加協定校：
2021 年度 合計 18 名（ドイツ 3、ベトナム 1、タイ 2、台湾 2、中国 7、日本 3）
2022 年度 合計 28 名（ドイツ 2、ベトナム 5、タイ 1、台湾 1、中国 10、日本 3、インドネシア 5、ブラジル 1）
- (5) レベルおよび講義内容：
 - ①対象の日本語レベル：中級後半～上級（JLPT 1、JLPT 2）
 - ②内容：i）海外の協定校の学生と三重大学の日本人学生が、互いに異文化の視点を尊重し、日本社会や文化について学び、Zoom でディスカッションする。ii）受講者は、社会や文化に対する観察力を磨き、自分の考えをまとめて日本語で発表する力を養う。
 - ③シラバス（表 1 参照）
 - ④主なスケジュール（2021 年度）：
 - ・第 1 回～第 2 回：オリエンテーション、自己紹介、ディスカッションの進め方やテーマの決め方の説明、座長グループとそのメンバーを決めた。

- ・第 3 回～第 6 回：模擬ディスカッション (合計 2 回)、座長グループのメンバーによるミーティング (合計 3 回)
- ・第 7 回～第 12 回：各座長グループ主導によるディスカッション。
- ・第 13 回：フィードバック、入賞者発表、Zoom 交流、アンケートの提出。

⑤座長グループが提案したテーマ：

- ・2021 年度：「次世代のアニメで、世界で人気が出るにはどのような要素が必要か」、「幸せな結婚生活を送るには、見合い結婚と恋愛結婚どちらがよいか」、「日本社会で今後も年功序列は重要視すべきか」、「高額収入を得るためには、大学院に進学すべきか否か」、「ラーメンは健康的か否か」、「美容整形した方が人生でメリットが大きいのか」。
- ・2022 年度：「結婚前に同棲は必要かどうか」、「小学生にスマホを持たすべきか」、「趣味を仕事にすべきか」、「プラスチックストローは廃止すべきか否か?」、「人間力」の前に「言語 (外国語と母語) 力」が大事だという意見に賛成か反対か」。

⑥その他：ファイルの提出方法として、ドロップボックスのアプリを使用した。学生同士の連絡方法はメールを使用した。参加賞の景品として三重県の特産である伊勢型紙の葉を郵送した。最終回の Zoom 交流活動では「私の大好きなおやつ」の紹介を行った。

3.2 『日本語ディスカッション』のアンケート結果

アンケートは、オンラインサービス授業として今後のあり方を尋ねる①「全体アンケート」(回答率 52.3%)と②『日本語ディスカッション』に関する詳細アンケート (回答率

表 1.『日本語ディスカッション』(2021)

レベル Level	講座名 Subject
日本語能力検定試験 1、2 級 Japanese-Language Proficiency Test (JLPT) N1 & N2	日本語ディスカッション Discussion in Japanese with Students from International Partner Institutions
担当教員 Instructor(s)	開講時間 Schedule
福岡 子 Masako Fukuoka fukuoka.cie@mie-u.ac.jp	水曜日 Wed. (日本時間 16:20~17:50) *受講決定者は Zoom アドレスをご連絡します。
目標 Objectives	1. 異文化の視点を尊重できるようになる。 2. 日本社会と日本文化について、異文化の視点で物事を理解し、考えられるようになる。 3. 日本社会と日本文化について観察力を磨き、自分の考えをまとめて発表できるようになる。 4. 日本人学生と協定校の学生がディスカッションを通して交流できる。
教科書 Textbook(s) etc.	教材はメール配布。
評価 Evaluation	議論評価 (70%)、座長担当の口頭発表や資料作成 (20%)、受講態度 (10%)、*優秀者 1~3 位に記念品を贈呈します。

【内容 Contents】

1. 三重大学の日本人学生と海外協定校の学生が、互いに異文化の視点を尊重しながら、日本の社会や文化について学び、オンラインで討論する。
 2. 受講者は、社会や文化に対する観察力を磨き、自分の考えをまとめて発表する力を養う。
- * 本事業は、三重大学国際交流事業経費「海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解」の助成を受けて行います。
* 協定校学生 25 名、三重大学日本人学生 3 名 (予定)

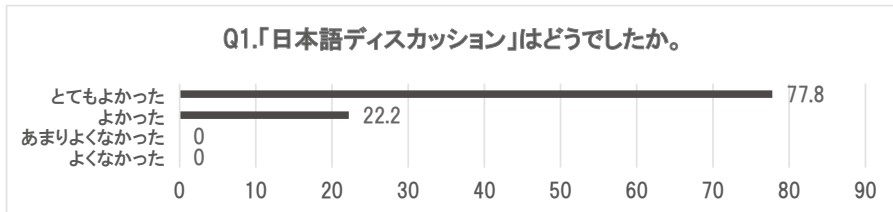
【計画 Syllabus】

1	11/10	オリエンテーション、討論の進め方、関心のあるテーマ (宿題)、講座前アンケート
2	11/17	討論の模擬体験 1、テーマの選び方、座長の役割、入賞について
3	11/24	座長グループによる企画・検討、グループ決め、テーマの検討、提出資料の検討
4	12/ 1	討論の模擬体験 2、討論の進め方、座長グループメンバーの決定
5	12/ 8	座長グループによる企画・検討、発表資料の検討、テーマの提出
6	12/15	座長グループによる企画・検討、発表資料の検討、テーマ変更の提出 (最終)
7	12/22	座長グループ主導によるディスカッション 1
8	1/ 5	座長グループ主導によるディスカッション 2
9	1/12	座長グループ主導によるディスカッション 3
10	1/19	座長グループ主導によるディスカッション 4
11	1/26	座長グループ主導によるディスカッション 5
12	2/ 2	座長グループ主導によるディスカッション 6
13	2/ 9	フィードバック、入賞者発表、交流、講座後アンケート

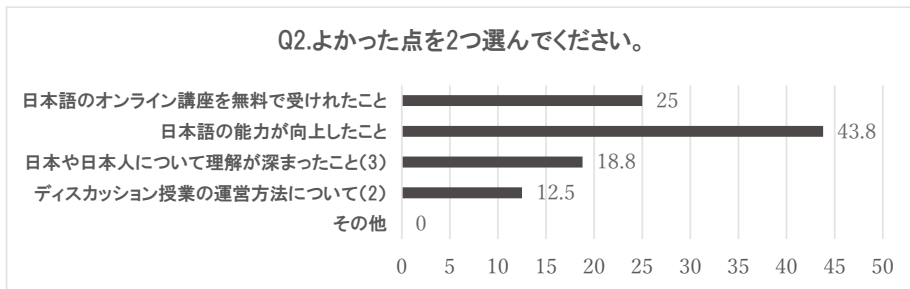
94.1%) と、2 種のアンケートに回答してもらった。なお、本結果は 2021 年度の結果を掲載する。

3.2.1 全体アンケート

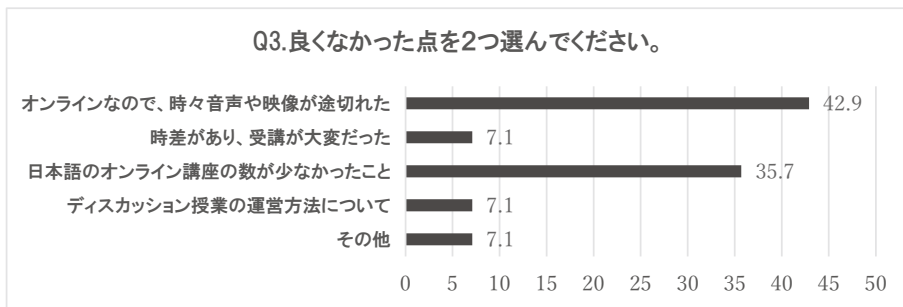
Q1. オンライン日本語講座『日本語ディスカッション』はどうでしたか？



Q2. 良かった点を 2 つ選んでください。



Q3. 良くなかった点を 2 つ選んでください。



Q4. コロナが収束しても、このような三重大大学のオンライン日本語講座を受けたいですか

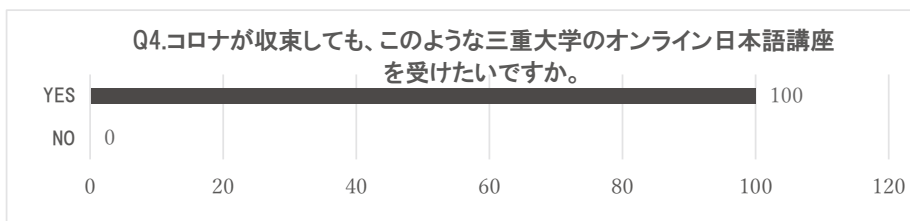
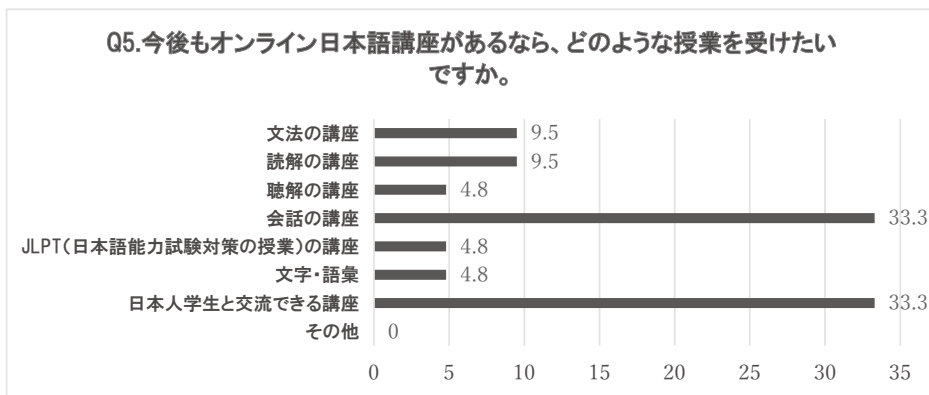
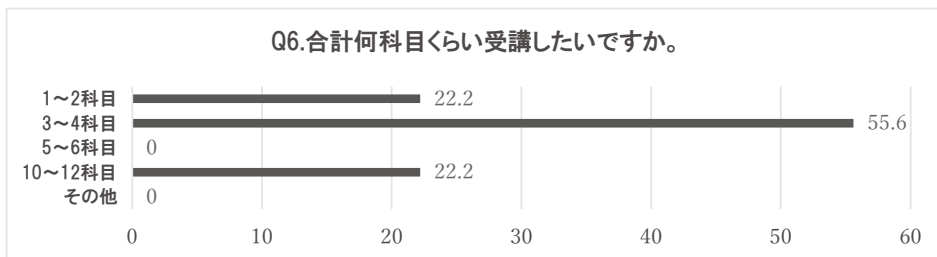


図 1. 『日本語ディスカッション』全体アンケート (Q1～Q4)

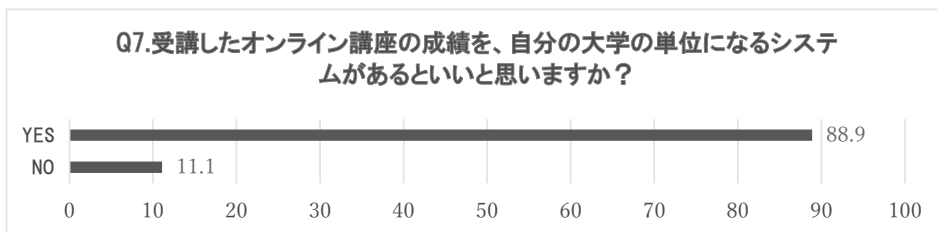
Q5. 今後もオンライン日本語講座があるなら、どのような授業を受けたいですか



Q6. 合計何科目くらい受講したいですか



Q7. 受講したオンライン講座の成績を、自分の大学の単位になるシステムがあるといいと思いますか。



Q8. 有料の講座になった場合、受講を希望しますか。(例：90分×16回で、1万円)

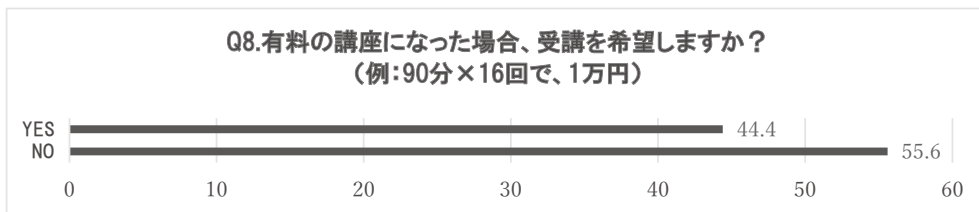


図 2. 『日本語ディスカッション』全体アンケート (Q5～Q8)

3.2.2 「日本語ディスカッション」に関する詳細アンケート

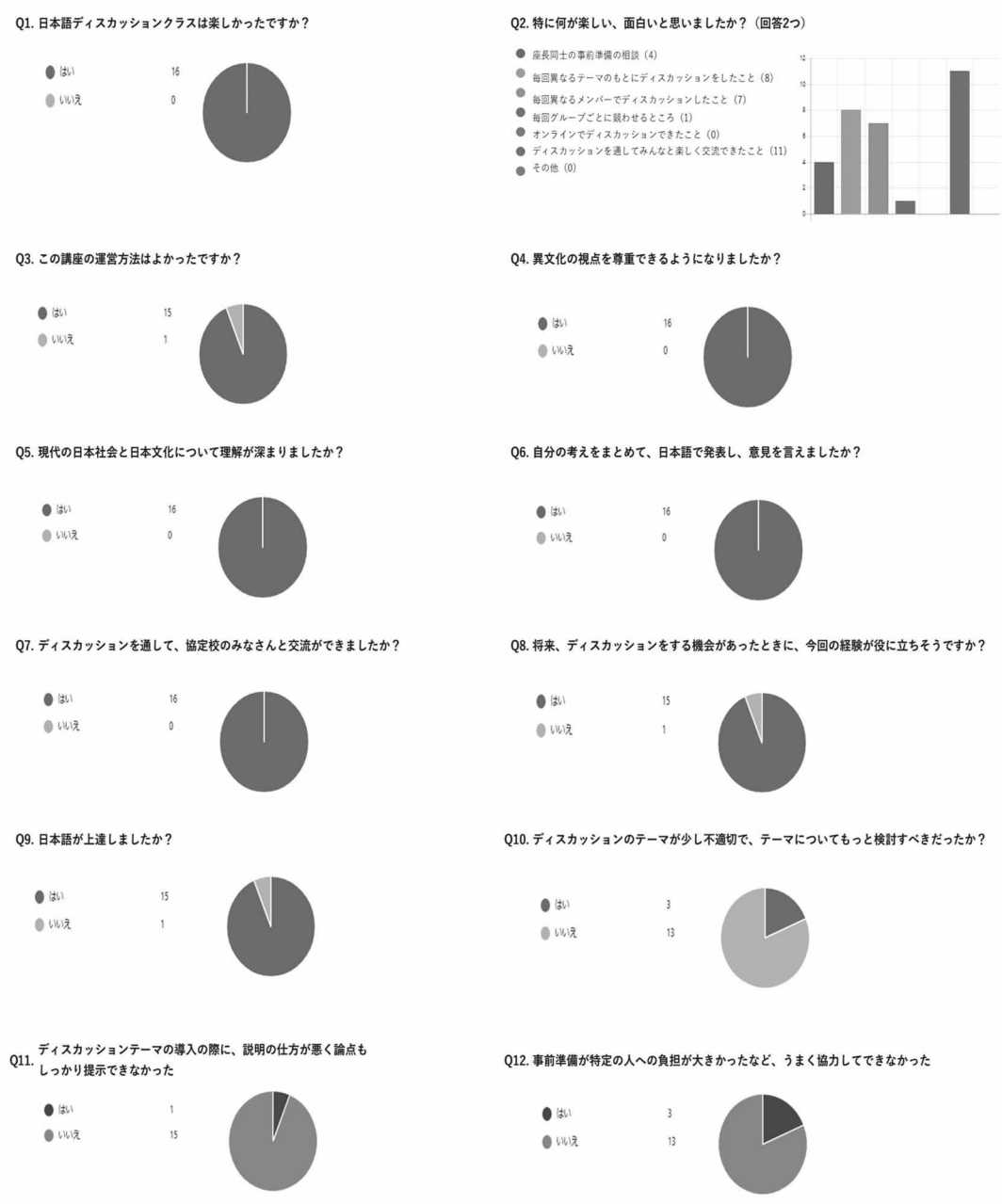


図 3. 『日本語ディスカッション』詳細アンケート（Q1～Q12）

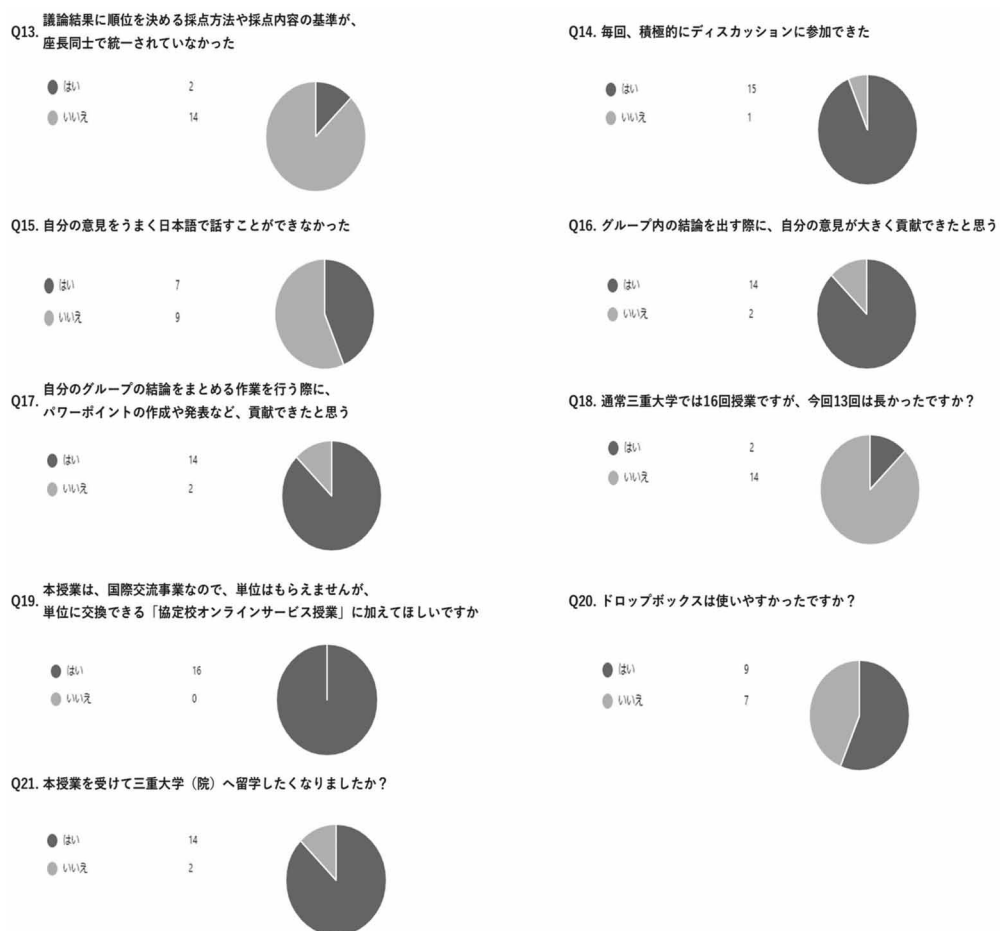


図 4. 『日本語ディスカッション』詳細アンケート（Q 13～Q 21）



図 5. 『日本語ディスカッション』の授業風景（2021.12.1）

Q 22.その他、気づいたこと、ご自由にお書きください。

- ・参加させていただき、本当にありがとうございます。三重大大学に感謝します。
- ・いろんな国の学生さん達と話し合ったり、意見を交換したり、すごく勉強になりました！日本語会話能力も少し上達したような気がしています。本当に楽しかったです。参加できてよかったです。
- ・ご指導いただき、ありがとうございました。楽しく勉強できました。
- ・いろいろな国から参加した皆さんと出会えて、また、みんなと日本語でディスカッションをする機会を提供していただき、本当に楽しかったです。
- ・授業のように日本語が磨けますから、もっと日本語を勉強したくなりました。国々の異文化を理解できありがとうございました。皆さんと一緒に勉強できて本当に楽しかったです。先生も優しくいろいろ教えていただきました。最後に、このような日本風の国際交流授業で勉強できて、日本に留学する希望が強くなりました。本当にありがとうございました。
- ・とても楽しい授業でした。
- ・どうすれば改善できるかはわからないのですが、毎回時間が少なかったので、焦ったりしてそんなに落ち着いてディスカッションはできませんでした。そして各グループと競い合うという点はあまり好きではありませんでした。採点する必要がないと思い、みんなと気軽に交流できればいいと考えています。
- ・正直言って、思ったより早く終わりました。ちょっと惜しいと思います。しかし、いろいろ勉強できて楽しかったです。
- ・コロナの影響で、なかなか日本に行けなくて、三重大大学にも行けないです。これは何よりも残念だと思っています。幸いに、オンライン交換留学のようなディスカッション活動に参加できました。多くの国の人と日本語で交流しながら異文化に触れることができました。楽しくて幸せだったと思っています。絶対一生忘れられないこととして心に残していきます。
- ・大学の時間も早いんですね。あっという間に大学時代にさようならと言う時間になります。今は高校日本語教師として中国人の高校生に日本語を教えています。つまり、大学四年生と高校日本語教師です。これからは中国人に日本語を教えるだけではなくて、日本文化とかいろいろな日本のことを教えようと思います。心から日本に行きたいと思っています。今は高校日本語教師ですけど、まだまだ習った知識では足りないと思っています。だから、いつか日本へ留学に行きたいと思っています。これから日本語教育の現場の中で、経験を積んで、研究したいことを発見します。チャンスあれば、ぜひ留学に行きます。人生は帰り道がない、勇気、自信、真剣さを持って行こうと思います。先生、ありがとうございました。みんな、ありがとうございました。
- ・日本に興味のある留学生と交流できて楽しかったです。また、各座長テーマの中には留学生ならではの『他国から見た日本への意見』があり、日本人では気づかない視点に気づくことができました。今回は私の都合により、出席回数が極端に少なかった事に後悔していますし、申し訳なくと思っています。この授業を後輩や他の学生にも広めたいですし、機会があればもう一度参加したいと思っています。
- ・この授業に参加できたのはありがたいです。
- ・この授業に参加できて本当に嬉しかったです。このような機会がなかなかなかったので、頑張って授業に参加しました。色々な国の人とオンラインで交流もできたので、よかったです。また、後輩にもこのような授業に参加してもらいたいと思っています。ぜひオンライン授業を行っていただけたら嬉しいです。
- ・外国の人と日本語で話せる機会は今までなかったので楽しかったです。皆さん、数年しか日本語を勉強していないのにちゃんと話せていて尊敬しました。ディスカッションのグループはランダムではなく賛成派と反対派に分かれて行えばもっと盛り上がると思います。これが単位になればもっといいと思います。

5. 考察

本事業は、コロナ感染症により国家間の移動が大きく制限されたことをきっかけに開始された。実施した結果、留学する機会を奪われた留学生にとって、無料で受講でき日本人学生や協定校の学生との交流も行われ、日本語の能力の向上を実感するなど、貴重な機会であったことが推察できる。オンラインでの実施なので、時々音声や映像が途切れたり、時差で受講が大変だったりとした地域もあったが、コロナ禍における協定校向けの日本語オンライン講座の実施意義は高かったと思われる。

実施後の全体アンケートにおいて、今後も日本語オンライン講座を継続するとしたら、どのような科目を学びたいか聞いてみた。一番多かったのが「会話」や「日本人学生と交流ができる授業」であった。『日本語ディスカッション』では数か国の海外協定校の学生が日本語で議論できたことが好評だった。有料の講座となった場合でも受講したいか尋ねると、回答者の 55.6%が受講したいという結果は意外であったが、オンライン日本語講座では会話や日本人学生との交流に重点を置いた科目が必要とされていることがわかった。

『日本語ディスカッション』は、詳細アンケートによると、ディスカッションするテーマやディスカッションするグループメンバーが毎回異なっていたことが、受講の楽しさにつながったようだ。13 回という長丁場のオンライン授業であったが、87.5%の受講者が期間の長さを感じなかったという回答だった。本学へ留学してみたいという回答も高く、実際に翌年度本学へ留学した受講者もいた。受講者にとっては、日本語力の向上や日本社会や日本文化の理解が深まったことも成果だったが、何よりも自国にいながらにして海外協定校の学生と日本語で交流できたことが、一番の成果だったと言える。

残念ながら、開講した日本語オンライン講座では、成績を出してはいるが自分の大学の単位になるシステムにはなっていない。そのため、アンケート結果では 88%の受講者が自国の大学の単位になるシステムがあるといいと回答していた。今後、COIL (オンライン国際交流学习: Collaborative Online International Learning) など、オンラインを利用した他国の学生との交流が盛んになることが予測されるが (注 5)、受講した学生が自国での成績や単位になるシステムの検討が望まれる。

今後課題となる点が幾つかある。アンケートでコロナ禍が収束しても、協定校向けに実施したオンライン日本語講座を受けたいか聞いてみると、94%の学生が受講を希望していた。しかし、その結果とは逆に、海外協定校向け日本語サービス授業『日本語コミュニケーション』では、2021 年度前期 21 名、後期 24 名、2022 年度前期 6 名、2022 年度前期応募者 0 名と、受講者が減少していったのである。当然ワクチンなどコロナ感染症への対策が進み、国家間の移動や留学が可能となっていたことがその大きな要因であると思われる。

が、なぜ受講者が減少したのだろうか。また、2021 年前期において、協定校オンライン授業の募集を開始した際に 1 校から 100 名近い応募があったため、各協定校 1 校につき 3 名までという制限で募集したところ、受講希望者が極端に減少した。この人数制限を行った募集システムにも要因があったと思われる。その一方で、『日本語ディスカッション』は、2021 年度 18 名、2022 年度 28 名と受講者が増加した講座もあるので、オンラインによる日本語の授業や講座は今後どのように展開するべきか、需要のあるオンライン日本語講座とは何かについても再度検討する必要がある。

ポストコロナにおいて、日本の文化や社会に関心があり、日本留学や日本で働きたいという外国人学習者のためには、本事業のような講座は、日本語力を高め日本人と交流を楽しめる魅力ある事業になってくのではないと思われる。そのためには、本学の魅力を発信する良い機会と捉え、単位振り替えなどの受講システムを構築していくことで、大学にとっては新しい展開が可能となる。コロナ感染症の拡大により世界は大きな影響を受けつつも、オンライン教育という新たな国際教育方法を見出した現在、今後も様々な形で学生交流、国際教育交流の在り方に挑戦し貢献を図っていきたい。

注

- 1) 「留学生 30 万人計画」とは、日本が世界に対してより開かれた国へと目指す「グローバル戦略」の一環として、2020 年までに日本国内の外国人留学生を 30 万人に増やすことを目標とした文科省の施策である。2019 年に留学生数は 31 万人に達した。https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1420758.htm (2022 年 9 月 21 日)
- 2) 文部科学省 (2015) 「スーパーグローバル大学創成支援事業」の趣旨は次の通りである。「徹底した大学改革と国際化を断行し、我が国の高等教育の国際通用性、ひいては国際競争力強化の実現を図り、優れた能力を持つ人材を育成する環境基盤を整備する。本事業のこれまでの実践により得られた優れた成果や取組を国内外に戦略的に情報発信し、海外における我が国の高等教育に対する国際的な評価の向上と、我が国大学全体としての国際化を推進する。」(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1360288.htm 2022 年 10 月 9 日)
- 3) 「大学の国際化促進フォーラム (JFIU: Japan Forum for Internationalization of Universities)」は、「スーパーグローバル大学創成支援事業」の中でも、大学の国際化に関わる取組みや研究の実施・共有・展開、情報の提供・共有を行う 18 の大学による 19 プロジェクトが中心となり、国際化をオールジャパンで促進する大学の主体的な活動の場である。文部科学省等関係機関とも連携しつつ、国際通用性・競争力を高めるために大学間が横連携で参画し、多様な国際化・国際戦略を目指すものである。(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/mext_01671.html (2022 年 9 月 23 日))
- 4) 『日本語コミュニケーション』は、コロナ禍で受講できない海外の協定校のレベルの異なる学生のために、オンラインを通して日本語を学ぶ機会を提供しようと、国際交流センターで企画し

たものである。①2021 年度前期 (63 名: 初級 19 名、中級 23 名、上級 21 名) (13 か国)、②2021 年度後期 (24 名: 初級 7 名、中級 6 名、上級 11 名) (6 か国)、③2022 年度前期 (6 名: 初級のみ開講) (3 か国)、④2022 年度後期 (0 名: 初級のみ開講) と、実施された。担当は伊藤晴苗非常勤講師で、講義内容は次の通りである。①初級: 毎回異なるトピックについて話しながら、語彙、文型、表現を学ぶ (教材: 『Weekly J 日本語に挑戦! for Starters』凡人社)、②中級: インタビューやスピーチを通して、まとまった内容のことを話す (教材: 『中級 日本語で挑戦! スピーチ&ディスカッション』凡人社)、③上級: さまざまな話題で、上級話者として求められる豊富な語彙や表現を使用した話し方を学ぶ (教材: 『日本語上級話者への道—きちんと伝える技術と表現』スリーエーネットワーク) である。現在コロナ禍の収束傾向により来日する留学生数に回復傾向が見られたため、2023 年度前期より暫く休止することになった。

5) COIL (国際協働オンライン学習プログラム) は、米国の State University of New York によって 2006 年に開始された。COIL は異なる国や地域に所在する 2 か国以上の大学において、授業を提供する教員同士が共同でシラバスを作成し、オンラインで国際的な協働学習の要素を組み込んで実施されるものである。COIL が期待される効果として、①数か国との協働学習や比較学習活動、②学生のリーダーシップ能力やプロジェクトの企画運営能力、③ICT リテラシーの向上、④教員間ネットワークの醸成、⑤留学が難しい学生への国際交流機会の提供、⑥オンラインと対面を組み合わせた教育手法による新たなグローバル教育の構築、⑦海外留学派遣や外国人留学生受入れなどの世界的な学生移動の向上、が指摘されている (静岡県立大学 2018)。この COIL を活用したグローバル教育が、今後国際教育交流の主流になっていくものとして、現在多く大学が積極的に取り組んでいる。なお、COIL 授業の試みとして、2022 年度夏季において三重大学国際交流推進経費の助成を受け「COIL Trial: オンラインによる語学研修&フィールドスタディ—北京外国語大学: 中国語研修と日本語学科との学生交流—」を実施した (福岡 2023 参照)。

参考文献

1. 太田浩 (2021) 「高等教育国際化の未来—ポストコロナの国際教育交流を考える—」『高等教育研究』第 24 集、pp. 111—129.
2. 静岡県立大学 (2022) 「What is COIL? US-COIL University of Shizuoka 大学の世界展開力強化事業」 (<https://www.us-coil.jp/coil/>) (2022 年 12 月 9 日)
3. 末松和子 (2022) 「新時代を切り開く教育国際交流—東北大学モデル—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構』紀要第 8 号、pp. 13—22.
4. 福岡昌子 (2023) 「COIL Trial: オンラインによる語学研修&フィールドスタディ—北京外国語大学: 中国語研修と日本語学科との学生交流—」『三重大学高等教育研究』第 29 号、pp. 43—54.
5. 文部科学省 (2015) 「スーパーグローバル大学創成支援事業」 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1360288.htm (2022 年 10 月 9 日)